

牛久：学校周辺に見る自然

第40号 牛久二中，稲敷市民農園

2010年10月23日発行

<ウラナミシジミの運命は？>



10月上旬、牛久二中のビオトープに見慣れないチョウがいました（上左）。その1週間後、わが家で借りてる稲敷市民農園でも見られました（上右）。シジミチョウの仲間であることはすぐ分かりましたが、^{はね}翅裏の模様がおもしろい。^{もよう}調べてみるとウラナミシジミというチョウで、この辺では夏の終わり頃よく見られるそうです。夏に北上するのだけれど、温暖な土地でないと越冬できず、関東では三浦半島や房総半島の南端が北限なのだそうです。ですからこのチョウも、おそらくは子孫を残せないまま死んでしまうのでしょうか。10月下旬に入ってプツリ見かけなくなりました。こうしてまた翌年には、再び北上してやってくるのでしょうか。この辺は、北上して分布を拡大しようとして、でも気象条件に阻まれてしまうその境目に当たるのでしょうかね。今後、温暖化などの影響で冬の気温が上がってきたら、この辺でも越冬して分布が拡大する可能性もあります。



南のチョウの分布拡大といえ、気になるのが何度か紹介しているツマグロヒョウモンでしょう。10/5に筑波実験植物園で、このチョウが10頭近く群れるように花蜜を吸っているのを見ました。オス（左の写真下）が多かったけれどメス（左の写真上）もいました。交尾こそ確認できませんでしたが、しきりに求愛する様子は見られました。大きくなった幼虫（下の写真）もいました。幼虫はパンジーの葉などを食べているので、冬越ししている可能性もあるかと思って気をつけて見るようにしています。

以前ご紹介したナガサキアゲハも気になるところです。



皆さんも、これらのチョウが越冬しているのを見かけたら、ぜひ教えて下さい。

【理科支援員・宮内】